

## コラム 42 一 間島暴動

昭和 3 年 7 月、中国共産党中央がモスクワで六全大会を開き、土地革命推進による労農大衆獲得の方針を確立してからは、満州にも共産党拡充工作が進み、同年 11 月には中国共産党満州委員会が発足し、満州の民衆に排日を呼びかけ、鉄道路権抗争推進、土地譲渡反対、旅順と大連の回収等を高唱しました。そして昭和 5 年 4 月には、朝鮮人団体の中心である朝鮮共産党満州総局は解体して中国共産党満州委員会に加盟し、4000 人以上の党員から成る全満暴動委員会が組織され、武装蜂起の計画が準備されました。暴動は 30 日夜半から、満州の間島各地で発生、発電所、通信・交通機関などを破壊、領事館、親日朝鮮人家屋などが襲撃を受けました。事件のあと日本人居留民は、警察力の増強を要求しましたが、当時の幣原外相は、応援の警察官引き揚げを決定したため、現地の間島在住の日本人は、幣原に対する激しい反対の声を上げることになりました。

このようにして、満州の間島地方のテロ事件は、昭和 5 年の後半には 81 件、死者 44 人、負傷者や焼失家屋は無数であったといわれています。そして、これらの事件に使われた武器、弾薬がソ連から搬入されていたことが、共産党員の逮捕によって判明しました。